なか〳〵會社はダマスことに驚れて居るから、云ひ廻しがうまい。

第一、船渠丈け一番先きに首を切つた時は何を標準とするか。その時は船渠で思ふだけの手當で濟ます積りだろうか、日本一の安手當で有名な會社だから、多分肥料位ひな値段で首を切る積りだろう。

第二、關東地方の同業者間では、今協議中だと云ふから、最底手當を定める考へだろう。しかし軍備縮少は、全國的の影響であるにもかゝはらず、何故關東地方と事更に區切つた物の云ひ方をして居るか…。それはほかでもない。船渠が日本最底手當を定めるに都合がいゝからである。會社で都合のいゝことは、我々には都合が惡るいに極まつて居るのだ。

我々の要求は、日本に於ける船渠と同等資本及設備の民間造船所と同じ手當を呉れと云ふのに有る。此位ひ物の分かつた話は、恐らく神樣の國にだつて、無いだろうと思ふ。

四、退職手當は、老衰疾病の爲會社が當然と認めた場合は、一年以上の勤續者には日給三十日分を支給す。

老衰とは一体何の標準に依つて定めるか。第一老衰する程造船職工をやつて居れるか…。これを滿五十五才以上の人にして退職せんとする人はと改めようと云ふのが。我々の要求である。

以上大体の説明をしたが、依是是を見れば、道理がどちらにあるかと云ふことがハッキリ分かる筈だ。これが分からないものは、犬と會社と、久米部長さん位ひなものだろうと思ふ。

殊に須田造機部長と、山口守衛長は、前回の交渉に於いて、明かに全國並にすると言明したにもかゝはらず、今に至つてそんな事を云つた覺へがないと白を切つて居る。あんまり勞働者を馬鹿にした仕打をすると君等の人格にさはる。尤も、月給と人格とを引き換へに會社へ賣り拂つたのだから、とつくの中にそんな氣のきいたものはもう無いのだろう。馬鹿にするな、昔の勞働者とは違ふ。船渠四千の兄弟諸君、勝敗は時の運だ。かくすれば、かくなるものと知り乍ら、止むに止まれぬ大和魂、俺達は、骨と皮ばかりになつてもやるぞ…、そうして必ず勝つぞ…。

横濱全職工同盟會

激す

二月廿七日正午、會社は遂に休業を宣し、四日に亙る完全なる怠業狀態は同盟罷工となるに至つた。

我等の要求する處は、既に新聞紙にも報ぜられた如く、軍備縮少に依る解雇手當を、全國民間造船會社と同一にせよと云ふにある。會社は、右の要求を、廿五日の會見に於て明らかに受諾したにも係はらず、其後の交渉に於いては關東地方の同業者と、にはかに改め、食言無恥實に奮激に不堪さるものがある。

此顚末の裏面には、所謂「關東同業者懇話會」が存在することは自ら明なことであるが、我船渠會社の頑迷に依ることはもとより云ふまでもない。

我等は、資本主義が、いかに彼等の手中に富を集中しつゝあると云ふ事實を知り、我等勞働者が、彼等の搾取の下に如何に貧窮のドン底に陷ち入りつゝあるかと云ふことを知るの時、我等の要求條件が、むしろ過小に失するを思ふ。

今や我々は、鐵丸の如き團結を以て、惡戰苦鬪、殆んど不眠不休を續けてゐる。

全國の勞働者諸君、殊に關東の造船鐵工の諸君よ **我等の運動は諸君の運命を左右する。**

我等が慘敗に終つた曉には「關東同業者云々」條件に從がつて最底手當に依つて追ひ出さるからである。

倉田、淺野、鶴見、浦賀、横須賀、横濱工作、石川島、渡邊の同じ運命の下なる勞働者諸君よ、我らに大いにして有力なる援助を與へよ、それは亦君ら自身の問題解決でもあるのだ。

横濱船渠爭議團